

「みんなのフードステーション」の開催の趣旨について

2021年6月

子ども食堂は、2012年に東京で初めて開催されました。その時は「子どもが一人でも安心して入れる無料・低額の食堂」ということで、「子どもだけの食堂」ではありませんでした。いろいろな地域で行われている多くの子ども食堂でも幅広い多世代交流の場として位置づけられております。

『わいわい子ども食堂』も2015年、家でひとりで食事をしている子どもたちに、必要なバランスが取れた食事を提供し、地域の大人も子どもも共に元気になる居場所を目指してスタートし、みなさまの交流の場として運営してきました。

ところが、昨年から広まった新型コロナウイルスにより、子ども食堂での食事の提供が難しくなりました。

『わいわい子ども食堂』を何とか継続して続けたいという切実な思いから、食事がだめなら誰でも簡単に食べられる食材を提供することにし、名称を『わいわいみんなのフードステーション』として、誰にでも自由に利用していただいています。

子ども食堂は公的機関がやっているわけではありません。私たちは緩やかなつながりを大切にして、「だれでも」と「みんな」をキーワードにしています。

配布する食材は、趣旨に賛同いただいた企業の寄付によって集まったものを配布していますが、数に限りがあるため、一家族一袋に限定させていただいています。

利用者の中には本当にその日の食事にも困っている方もいらっしゃいます。

このような経過や趣旨をご理解いただき、皆さんが楽しくご利用頂くためにご協力をお願いします。

一日も早くコロナが収束し、食堂が開催できることをスタッフ一同心待ちにしています。



わいわい子ども食堂プロジェクト
運営委員長 杉崎伊津子